

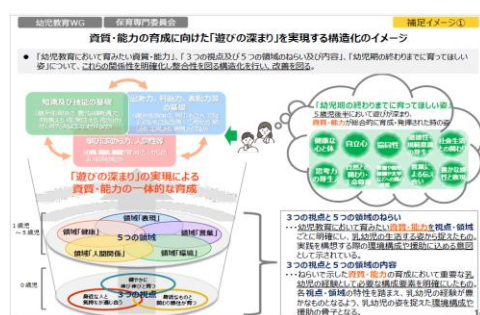
資質・能力の育成に向けた「遊びの深まり」について

<ポイントはこちら>

幼児教育ワーキンググループ・保育専門委員会では...

- ① 幼児理解に基づく学びの見取りの方向性が示された。
- ② 遊びと資質・能力を結び付ける構造化の方向性が示された。
- ③ 環境構成と援助による学びの循環の方向性が示された。

文部科学省中央教育審議会幼児教育ワーキンググループ・保育専門委員会の取りまとめ案では、幼児教育における資質・能力の育成に向けて「遊びの深まり」の実現が重要な視点として示されています。その実現に向けて、遊びの中での学びを捉え、資質・能力や領域のねらいと結び付けながら、環境構成や援助を改善していく循環的な実践が提案されています。



令和8年6月5日幼児教育ワーキンググループ・保育専門委員会資料より

① 幼児理解に基づく学びの見取りの方向性

幼児にとって遊びは学びそのものであり、遊びの過程には様々な学びや育ちが含まれています。大切なのは、遊びの結果だけを見るのではなく、幼児が何に興味をもち、どのような試行錯誤や気づき、友達との関わりを通して学んでいるかを丁寧に見取ることです。保育者は、幼児の姿から遊びの中の「学び」を読み取り、その背景にある資質・能力の育ちを理解します。このような幼児理解を基盤とすることで、一人一人の育ちに応じた援助が可能となり、遊びがさらに充実し深まっていきます。

② 遊びと資質・能力を結び付ける構造化

取りまとめ案では、「育みたい資質・能力」「領域のねらいと内容」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の関係を整理する「構造化」が提案されています。これまで現場では、それぞれの関連が十分に理解されにくいことが課題とされてきました。構造化によって、日々の遊びや生活の中で見られる幼児の姿が、どのような資質・能力の育ちにつながっているのかを捉えやすくなります。これにより、保育者が意図をもって実践を構想し、幼小接続の視点からも育ちや学びを共有しやすくなることが期待されています。

③ 環境構成と援助による学びの循環

「遊びの深まり」は、幼児に自由に遊ばせるだけで実現するものではありません。保育者は、幼児の遊びや学びを見取り、その理解を基に環境の構成や再構成、援助の工夫を行います。すると、幼児は新たな課題や興味に出会い、さらに遊びを発展させていきます。この過程で、多様な動きを伴う体験、他者と協同する力、言葉を用いて考える力などが育まれます。こうした「見取る→考える→環境を整える→遊びが深まる」という循環こそが、資質・能力の育成に向けた「遊びの深まり」の中核となる考え方です。

～架け橋期コーディネーター派遣 他園受け入れ～

再来月以降の
情報はこちら



派遣園の了解を得て、保育参観や園・校内研修に、他園・校の保育者の参観を受け入れる仕組みです。受け入れ情報は、順次ホームページでお知らせしています。

受入希望は、訪問日の10日前（土日祝日を除く。）までに、府幼児教育センターに電話又は電子メールで御連絡ください。

園・所・校名	派遣先・会場	目的	派遣日	派遣日開始 時間	派遣日終了 時間	派遣コーディネーター名
京丹後市立大宮こども園	京丹後市立大宮こども園	1歳児の保育参観、0～2歳児の園内研修での指導・助言	令和8年9月11日(金)	午前9時30分	午後3時00分	土橋 安子
乳幼児教育の質向上推進事業 乳児保育・教育研修	舞鶴市中総合会館	乳児保育に関する理解を深め、個々の子どもの発達状態に応じた教育・保育を行うための環境の構成や保育者の関わりについて学ぶ。	令和8年9月16日(水)	午前10時00分	午後5時00分	大橋 美智子
宇治田原町立宇治田原小学校	宇治田原町立宇治田原小学校	・幼児期の育ちやまなびをつなぐ学校づくりへの助言 ・「架け橋プログラム」プロジェクト会議における公開授業参観及び指導助言	令和8年10月6日(火)	午後1時20分	午後4時00分	大橋 美智子
南丹市立城南保育所	南丹市立城南保育所	3歳児の遊びや行動を通して発達を学び、保育士の質の高い保育実践につなげ資質向上を目指す	令和8年10月9日(金)	午前9時30分	午後3時00分	西口 千鶴
三山木保育所 園内研修	三山木保育所	保育参観、園内研修での指導・助言、園経営に係る管理職への助言	令和8年10月20日(火)	午前9時30分	午後3時30分	大橋 美智子
京田辺市立河原こども園	京田辺市立河原こども園	園全体・各クラスの環境づくりについての指導・助言	令和8年10月26日(月)	午前9時30分	午後2時45分	土橋 安子
福知山市立福知山幼稚園	福知山市立福知山幼稚園	3・4・5歳児の保育参観及び事後園内研修において指導・助言	令和8年10月30日(金)	午前10時00分	午後3時00分	土橋 安子

☆きらり、育ちのひとコマ☆

「できひんと思ったら、できひんねん。」～挑戦を支えた友達との育ち～

冒頭の言葉は、小学校入学後の連絡会で、ある園の先生が卒園生から聞いた言葉です。授業参観の後、「鍵盤ハーモニカ、上手に吹けてたね。頑張ったなあ。」と声をかけると、この言葉を返してくれたそうです。

この子は4歳児の頃、どちらかといえば内向的で、外遊びへの関心は控えめでした。しかし5歳児になると、友達に刺激を受けながら川遊びや山登りなどに積極的に参加するようになりました。初めはためらいながらも、仲間と一緒に挑戦する中で「やってみよう。」という気持ちを膨らませ、様々な経験を重ねていきました。

冒頭の言葉からは、友達との関わりの中で育まれる力の大切さが見えてきます。幼児は友達に憧れたり励まされたりしながら、自分の世界を広げていきます。この子にとっても、仲間との遊びや挑戦が新たな一歩を踏み出すきっかけになったのでしょう。

また、この言葉には幼児期の経験を通して育まれた自信が表れています。自然体験の中で試したり失敗したりしながら、「やってみたらできた。」という実感を積み重ねてきたからこそ生まれた言葉ではないでしょうか。

幼児教育では、できることを増やすだけでなく、自ら試したり挑戦したりする過程を大切にします。この子の姿は、友達と共に経験を重ねる中で育まれた自信や意欲が、小学校での学びを支えていることを教えてくれます。幼児期の遊びの中で育った力は、確かな学びの土台となっているのです。



～研修動画の紹介～

京都府幼児教育センターがホームページ上で公開している研修動画です。

幼児教育施設での園内研修や小学校での校内研修用、また保育者の自己研鑽用として御活用ください。

◇ 0歳児・1歳児の主体性

～生活の場面に焦点をあてた環境と援助の工夫～

架け橋期コーディネーター 大橋美智子



京都府幼児教育センター

Tel : 075-414-5672 (京都府教育庁指導部学校教育課内)

Mail : gakkyou@pref.kyoto.lg.jp

公式HP

